



ウガンダ在住高校生との国際交流会 ～知見を広げた3年生～

地域連携授業「地域Ⅱ」では、立科町の地域おこし協力隊である須藤さんにご協力をいただいています。須藤さんは以前、青年海外協力隊員としてウガンダに派遣されていました。そのご縁で12月11日(金)、3年生はウガンダ在住の日本人高校生、今村美南さんとオンラインで交流会をしました。

「地域Ⅱ」では以前よりウガンダについての調べ学習を行っています(No.12号参照)。さて、その知識を生かし、交流できたでしょうか？

私が授業を尋ねた時には、今村さんへの質問タイムでした。「ウガンダのデートスポットは？」という軽い話題から、「ウガンダの少年兵について知りたい」という、リアルな国際問題(人権問題)の質問が出ました。今村さんは反政府軍が少年を誘拐して洗脳少年兵にしていること、少女を誘拐して性奴隷にしている実情を語りました。生徒たちは日本とあまりにも違うウガンダ情勢に驚きながら真剣に聞き入っていました。生徒はどのような感想を持ったのか、後日聞いてみることにします。



レガシー受け継ぐ 生徒会！ ～挨拶運動のバトンタッチ～

10月末に3年生から引き継いだ生徒会は、早くも行動を起こしています。前生徒会が残した良い遺産(レガシー)である挨拶運動が、12月より元気に始まりました。

新型コロナウイルス感染症の拡大が止まらない世界と日本。閉塞感漂う状況の中で、生徒のはつらつとした声は、それらを吹き飛ばす力を持っています。

前生徒会長の田村君は、「彼らが引き継ぐことで、自分たちのやってきたことが評価されたんだと思うと、本当にうれしい。」と話してくれました。



困ったお話(その17) (～中年女性の社交性にあやかりたい～)

毎日ウォーキング&ランニングをしている。日曜日の良く晴れた午後、私は茂田井地区を歩いていた。なだらかな丘陵地に田園と林が続き、その先に雄大な浅間山がそびえる大パノラマが広がっている。身も心も軽やかに歩いている途中、中年女性が高枝ばさみで柿の実を採っていた。にこやかに挨拶すると、仕事の手を休めて世間話になった。そして『この柿、好きだけ持ってって』と勧めてくれた。お礼を言いつつ、手持ちのビニール袋いっぱいを持って帰り、皮をむいて住宅のベランダで干し柿に(写真の手順)。

ウォーキングで行き会う人に挨拶し観察した結果、私はある傾向を感じている。それは、「中高年女性は社交的」ということだ。若い男女、中高年男性は警戒心が強い自分の「対面的なよろい」を身につけているのか、たいがいそっけない挨拶で終わってしまう(困ったことに無視されることも)。それに比べると中年女性は自然体でたくましい。挨拶をすると積極的に話しかけてくることも多く、道端で1時間ぐらい話しこむこともある(私もたいがいなものだ)。その社交術を学び、老後「ぬれ落ち葉」になり妻にうっとうしがられ孤立することだけは避けたいものだ。

